



※写真：神宮司庁提供 ※文章：神社本庁引用

神宮大麻を  
おまつり  
しましよう

神宮大麻全国頒布



百五十周年記念



# 神宮大麻の歴史



平安時代の末期、伊勢の御師おんしと呼ばれる祈禱師が、全国各地で祈禱を行い、その印として「御祓大麻おほらいたいま」を頒布したことに始まります。江戸時代後期には、全国の世帯の約九割が御祓大麻を受けていたと考えられています。御師は伊勢の神宮に奉仕する神職でもあり、全国からの参詣者の案内や神楽奉奏、宿泊の提供なども行い、全国の崇敬者との橋渡しとなっていました。

この伊勢の御師による「御祓大麻」の頒布は、明治維新後の制度改革により廃止されましたが、明治天皇の思召しにより、明治五年、皇大神宮拝礼のための大御璽である神宮大麻として、神宮より直接、全国民の家々に漏れ落ちることのないよう頒布されることとなりました。後に数度の変遷を経て、現在は全国の神社を通じて頒布されています。

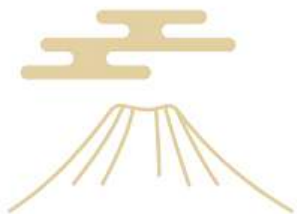
※写真：神宮司庁提供 ※文章：神社本庁引用



天照皇大神宮



# 神宮大麻とは？



皆さまが住む地域の氏神さまをはじめ各地の神社には、その神社の御祭神のおちからが宿るお神札があります。中でも伊勢の神宮の神さまである天照大御神のおちからを宿し、私たちにより大きな恵を与えてくださるお神札を特に「神宮大麻」と称しています。

神宮大麻の「大麻」とは、本来「おおぬさ」と読み、神々への捧げ物、お祓いの際に用いられる木綿や麻を指します。このことから、嚴重なお祓いを経て授けられる清らかなお神札を「大麻」と呼ぶようになりました。尚、地域によつては「お伊勢さん」や「天照さん」、「お祓いさん」、「大神宮さま」と親しみを込めて呼ばれることもあります。

※写真：神宮司庁提供 ※文章：神社本庁引用



じんぐうたいま  
神宮大麻



おほらいたいま  
御祓大麻

# なぜ神宮大麻をおまつりするの？

なぜ、家庭や職場の神棚に地域の氏神さまのお神札とともに神宮大麻をおまつりするのでしょうか。それは、皇室の御祖神である天照大御神をおまつりする伊勢の神宮は、私たち日本人の総氏神のようなご存在であり、その御神徳によって日本は秩序づけられ、発展してきた国と信仰されているからです。年末になると家庭では新しい年を迎え、神さまの瑞々しい生命力をいただくため、新たにお神札を受けます。私たちにとって、**家庭は大切なおまつりの場**であって、神さまとともに日々の生活が営まれてきました。そうした実感が日本人の信仰の大切な基礎を形作ってきたといえます。

## 神棚の起源



神さまを棚にまつるという故事は、一三〇〇年以上前に編纂された日本最古の書物である『古事記』に記されています。天照大御神が伊邪那岐命から賜った神聖な宝物を、神さまとして棚におまつりされたという神話で、今日の神棚が伊勢の神宮と深い関わりのあることがうかがわれます。また、伊勢の神宮といえば、古くから日本中の信仰を集め、御師によって御祓大麻が全国に頒布されており、当時、各家庭では、その御祓大麻をおまつりするために、「**大神宮棚**」という特別な棚が設けられています。以後、この棚を中心に家庭のまつりが行われるようになったと伝えられています。



# 神宮大麻奉製に関するおまつり

一月上旬

## 大麻曆奉製始祭

年頭にあたり、今年の大麻と曆の奉製を始めることを大御前に奉告します。禰宜以下の神職が奉仕し、大宮司以下、大麻・曆の奉製に携わる奉製員等が参列します。参籠潔斎をし、斎服を著した禰宜が案前に進み、今年一年間に奉製する大麻の第一号となる大麻に謹んで神璽しんじを押捺します。



四月中旬

## 大麻用材伐始祭

大麻の御用材を伐り始めるにあたり、宇治橋にほど近い丸山祭場で行われ、「大宮山の木木の木本に坐す大神」をおまつりします。禰宜ねぎ以下神職が奉仕し、侍烏帽子さむらいえぼしに素襖すおうを著した工匠が忌斧をふるって「伐始きりはじめの儀」を行います。また、五色の薄緋うすぎぬ、木綿、忌物として鉄の人像・鏡・鉾等もお供えされます。



十二月下旬

# 大麻曆奉製終了祭

年末にあたり、今年の大麻と曆の奉製が無事終了したことを、慎んで大御前に奉告します。禰宜以下の神職が奉仕し、大宮司以下、大麻・曆の奉製に携わる奉製員等が参列します。

月に数度

# 大麻修祓式

奉製された神宮大麻は月に数度、丁重にお祓いされます。

※写真：神宮司庁提供 ※文章：神社本庁引用

